

公正な研究活動を推進するには

2017年3月25日（土）9:00-11:30
仙台国際センター「展示棟」1階会議室1

後援：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

1. オープニングリマーク

小出隆規（早稲田大先進理工）

2. 講演

日本における研究不正の実例とメディアでの取り上げられ方 榎木英介（近畿大医）

アカデミアにおける研究公正への取り組み

安井裕之（京薬大）

日本製薬工業協会における研究公正への取り組み

稻垣治（製薬協）

AMEDにおける研究公正への取り組み

鈴木裕道（AMED 研究公正・法務部）

研究公正を目指す取り組み：現状と新しい取り組み

田中智之（岡山大院医歯薬）

3. パネルディスカッション

「公正な研究活動を推進するには」

（演者＋加藤理（文科省研究公正推進室））

4. クロージングリマーク

田中智之（岡山大院医歯薬）

我が国では、医学や生命科学の研究領域において相次いで研究不正の疑義が告発されている。欧米でも生命科学研究における再現性の低さが指摘されており、その議論においても研究不正の問題は大きな位置を占めている。このような「研究不正問題」は、医学・生命科学研究の一翼を担う薬学においても、解決すべき喫緊の課題である。従来、研究不正とは、強い個性をもつ研究者が起こす特異な事件であると考えられ、個々の事件から普遍的な教訓を得ようという姿勢は認められなかった。しかしながら近年では、研究不正は研究活動に附隨して発生するものという認識が深まり、より本質的な議論が始まろうとしている。組織的な取り組みとしては、文部科学省では研究公正推進室、AMEDでは研究公正・法務部がそれぞれ活動を始めており、一般財団法人として公正研究推進協会（APRIN）が設立された。本シンポジウムでは最近のこうした変化を概観する。また、アカデミア、製薬企業、政府機関の取り組みを紹介し、健全な研究環境を維持するために重要な情報を共有する。最後のパネルディスカッションでは公正な研究活動を推進するためには何が必要であるかを議論する。研究公正の維持は研究者全員に関わる問題である。本シンポジウムが、研究者自らがこの問題を語り、行動する契機のひとつとなることを願う。

オーガナイザー 田中智之、小出隆規

第135回年会のシンポジウムの際に作成したwebサイトにおいて、研究公正に関する資料をまとめてあります。研究公正のカリキュラム、講演等でお役に立てば幸いです。本シンポジウムの資料についても後日掲載する予定です。

「誠実な生命科学研究のために」

<https://sites.google.com/site/integrityolifesciences/>